

長畝ふるさと通信



【2025年4月号】

■ 土砂降りのお祭り…それでも

今年の祭りは朝から生憎の雨模様。早朝5時に神社に集まり、身支度を整えてスタート。最初に神社で奉納の舞を約1時間かけて行い、そのあと集落約80軒を1軒ずつ門付して回ります。青年会(45歳以下のおっさん達)はたったの8人、知り合いの若者が2名急遽参戦して、その他に我らOBが数名…「これで1日持つのかしら」と思いながら雨の中、氣勢を張ります。



● 長畝の鬼面は角が無く、阿吽の能面仕様でしかも重たい。視界は狭く舞手は大変です。



太鼓を叩きたいと練習にも参加したジョーダン君でしたが、残念ながら日本のリズムには馴染めず、当日は太鼓担ぎに専念。祭りの法被ははち切れんばかり、土砂降りの中「8時まで頑張った、もう寝るよ」とラインを残してリタイヤ。この辺りは外国人はドライですな。我々は最後は祭りを全うするという使命感だけで深夜まで太鼓を叩き続けたのでした。佐渡の鬼太鼓(おんでこ)は五穀豊穡祈願や厄

払いを目的に行われている伝統芸能で、島内約120地区に鬼太鼓の団体があると言われてますが、どこもご多分に洩れず高齢化が進んでおり、祭りを中止せざるを得ない集落も少なくありません。人口減少は産業に大きく影響し、特に田舎では農業生産や伝統芸能の継承が困難となっています。地方創生担当大臣は何やってるんだろうか。



■ 祭りが終われば本格的に百姓モード

祭りが終わると田植えに向けて春作業が急ピッチで進められます。全国的なコメ不足からいままです飼料用米を作付けしていた生産者の大半が主食用米に切り替えたそうです。我が社も近隣地域で廃業した生産者からの小作が5ha増え、若干の増産体制。これで今年はコメ騒動なく相場が下がってくれたら良いのですが……。大手スーパーが輸入米80%のブレンド米を発売して話題となっています。TVのリポーターは「輸入米と言われなければわからないですね、普通に美味しく頂



けます」などと軽々しく言いますが、我々生産者にしてみれば「無責任な事言ってんじゃね〜よ」と思わずTVに怒鳴るところです。こんな事がまかり通れば益々食糧を外国に依存することになってしまいます。大企業の儲け主義に怒りを覚えます。ポク的に言えば「ウイスキーに日本酒混ぜて飲むんかい！」という感覚です。

1回の播種数は約2,000箱。加温室で2日間、加温して発芽(白い小さな目が出てきます)させた後、育苗ハウスに並べます。被覆シートを被せて2日で苗が緑化し、20日後には田植えができる草丈まで成長します。5月1日から田植えの予定です。豊作祈願は毎晩の晩酌で……



■ キッズも始動

今年度の佐渡キッズ生きもの調査隊の活動も始まりました。今年の隊員は25名、自称生きもの大好き少年・少女たちが集まってくれました。これから1年間、田んぼ仕事を体験しながら生きもの



たちと触れ合う活動をしていきます。この日はモリアオガエルの交尾にみんな興味津々、どっちがオスでどっちがメスか議論が伯仲しました。「オスの方が大きいんだよ」「メスの上にオスが乗るんだよ」……帰ったらお母さんに聞いてくださいね。

春爛漫、楽しいひと時です……